

つながりを大切にし、

かかわりを深める児童生徒の育成



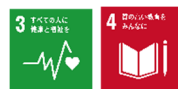
ユネスコスクール便り

令和4年3月23日

No.115

大牟田市Iネットスクール
担当者通信

特色ある実践事例の紹介

大牟田のまちづくりを担い社会の創り手となる生徒を育む
「白光タイム」 白光中学校

1年生は、福祉学習を主とした取組を通して、様々な人や地域との関わりについて考えました。特に福祉体験学習では、有明高校・誠修高校・帝京大学・久留米大学・九州看護福祉大学の学生から、だれもが安心して暮らせる社会をめざして自分に何ができるかについて様々な観点から話していただき、考えを深めました。実際に福祉の仕事を経験することで、自分たちにできることは何だろうと深く考えることができました。体験したことや感じたことなどをわかりやすくまとめ、生徒同士が学び合うことで、共生の大切さを理解することができました。



福祉の仕事を経験する生徒

世界文化遺産『宮原坑』について学ぶ 宮原中学校



宮原坑を訪問し、現地のガイドの方から直接説明を聞くことで、宮原坑が世界文化遺産としてどのような価値があるのかを学習することができました。また、タブレットを活用して、宮原坑が映える「最高の1枚」をもとにして、協力しながらレポートを作成しました。まとめとして、発表会を実施しましたが、「宮原坑の本当の価値は、命の危険にさらされながら働いた労働者とそれを支えた地域や社宅の人たち、宮原坑を世界文化遺産に登録しよう努力した人たちだと思う。」という言葉で締めくくり、今後も主体的に地域活動に関わっていきたいという意欲を高めました。



ESDの取組を発信する生徒

ふるさとのよさ再発見 上内小学校



上内小学校では、地域の「ひと・もの・こと」を活用し地域の方とのふれあいや協働することを通して、ふるさとに誇りを持ちよりよい自分を創る子どもを育成するために、各学年の発達段階に応じた取り組みを行っています。3年生では、総合的な学習の時間「上内よかところ見つけ隊」の学習で、江戸時代から受け継がれてきた「銭太鼓ひゅうたん廻し」について、地域のGTの方に祭りの由来や内容、地域の方々の思いや願いについて教えていただきました。また、上内八幡宮に見学に行き、宮司さんの話を聞いたり質問したりして、「上内は自然の豊かさが自慢だけど、昔からの宝物や歴史もすごいんだなあ。」と、上内の文化財や歴史についても学んでいます。自分たちにできることについて考え、発信していきます。



祭りについて教わる児童

心のキャッチボール ～福祉を通して～ 高取小学校



4年生は福祉体験を行っています。校区にある養護老人施設を訪問したり、そこで出会ったお年寄りと一緒に活動をしたりして、お年寄りの励みになる活動を計画しました。今年度は実際に訪問したり、交流したりすることができなかったので、リモートで何かできないか考えました。

そこで、Zoomを使って、延寿苑や米の山のデイサービスのお年寄りに読み聞かせをしたり、クイズを出したり、一緒にゲームをしたりしました。子どもたちも、お年寄りの喜ばれる姿を見て、自分たちにもできる福祉があることを学びました。



延寿苑をリモート参観する児童